

JEFO

～ 白い小箱だより～

平成26年 7月 1日 第 2 号
発行：一般社団法人日本非常食推進機構
住所：三重県四日市市浮橋1丁目4-3
TEL: 059-328-5345 / FAX: 059-351-1917
http://shiroikobako.org/index.php
E-mail: nrj44425@nifty.com

「白い小箱ハーフ」でいよいよ本格的に導入

JEFO～白い小箱だより～第1号にてご紹介致しました、防災教育の実施に向け、白い小箱ハーフの備蓄が、県内の高等学校で本格的に開始されました。

平成26年6月17日(火)、学校法人高田学苑と一般社団法人日本非常食推進機構(JEFO)は「災害用物資を活用した防災活動に関する協定」を締結しました。(協定書についてはホームページ参照)



(写真) 調印式の風景

この協定のねらいは、単なる災害用物資の備蓄ではなく、入学時にこの「白い小箱ハーフ」を購入することにより、防災意識の向上を図るとともに、障がい者に対する知識や支援の意識、海外の食糧支援を通じて国際貢献など様々な活動から学びを得ることを目的としております。

また、地域住民と学校との防災協力、様々な学習を経て、ご家庭で防災について考えるひとつのきっかけ作りにも貢献できると考えています。

高田学苑の高臣文祥理事長は、JEFOの活動に理解を頂き、単に災害用物資を購入し保管するだけでなく、この小箱を活用することにより、様々な教育に繋げることが出来る仕組みと評価を頂きました。



(写真) 障がい者施設の利用者による納入風景

高田学苑は、今年度は協定に基づいて全生徒・学生、職員分の約3,200個を既に導入し、来年度からは、新入生分の小箱を毎年購入して構内に備蓄していく計画です。

愛知県や京都府の高校校長会でも紹介

京都府の公立及び私立の校長会や、愛知県の高校校長会においても「白い小箱」を紹介頂きました。

当機構は、紹介頂いた高校に順次詳細説明を行うため、学校訪問を予定しています。

白い小箱ハーフ導入学校(2014.7.1 現在)

【三重県立】

四日市高等学校、宇治山田商業高等学校、松阪工業高等学校、稲生高等学校、まなび高等学校、飯南高等学校

【三重県内私学】

学校法人高田学苑、学校法人暁学園、セントヨゼフ女子学園

【京都府導入校】

京都産業大学附属中学校・高等学校

【今年度導入予定】

学校法人エスコラピオス学園海星中学校・高等学校

第 39 回日本精神科看護学術集会 in 広島に参加しました

「白い小箱」運動の活動について、一般社団法人日本精神科看護協会（東京；全国約 40,000 名の精神科に携わる看護師の協会）に運動の趣旨をご説明させていただき、龍野業務執行理より事業内容が「面白いし当協会の防災対策として活用しやすい」と好評価をいただいた。

そのことから、平成 26 年 6 月 6 日より 8 日までの 3 日間で開催された、第 39 回日本精神科看護学術集会 in 広島にて、協会災害対策本部の横へブースを準備していただき参加致しました。

この学術集会には、約 1500 名の全国から集まる看護師らの学会で、参加された看護師らはブースに展

示してある「白い小箱」やその活動内容などに興味津々のようで、それぞれの所属する病院内で活用出来ないか等、たくさんのご質問をいただくことが出来ました。



(写真) 白い小箱運動展示風景

「白い小箱ベビー」誕生！！

幼いころから防災教育をすることにより、大人になっても自助の精神が当たり前と考えられる教育教材として児童向けの「白い小箱ベビー」が誕生しました。

児童は、授業の中で箱を組み立て、非常時に必要な中身を入れ、箱には自分で好きな絵を書いたり、名前を入れる。



(写真) 白い小箱ベビー

自分のことは自分自身で行うという教育と同時に、生命を守るにはまず何をしなくてはならないか等の自助の知識を低学年、中学年、高学年に分かれて学ぶ場所をつくる。

子供たちが学んだことが家庭の中で繁栄され、備蓄、家具転倒防止等防災についてみんなで考え話会

える時間がもてるようになることを目的としています。桑名市では、立教地区連合自治会の協力を得、小学校校長、教育委員会とも協議の結果、白い小箱ベビーを教育教材として使用し、本年 10 月後半に防災授業を実施する予定。低学年、中学年、高学年に分かれ、それぞれ講師を迎え、1 時間の授業を行う予定となっております。

講師には、大学生の防災ボランティア等、幅広く協力を要請しております。

四日市でも四日市教育委員会より校長会にて発表これを機会に、幼少期の防災教育が波及していくよう、運動を展開していく予定です

「白い小箱ベビー」愛媛県にてデビュー

これに先がけ、平成 26 年 7 月 21 日には、愛媛県にて行われる、公益社団法人新居浜青年会議所主催の青少年学習事業「まるっと淡路島 ～探しだそう！震災から学ぶ大切なもの～」のイベントに白い小箱ベビーを採用していただきました。

この採用には、岐阜大学工学部付属インフラマネジメント技術研究センター特定研究補佐員の村岡治道先生のご紹介により実現致しました。

このように、様々な方のご尽力とご理解でこの「白い小箱ベビー」も、社会貢献に役立つと期待しています。

災害用備蓄食品を活用したフィリピン共和国への食糧支援

『世界の絆プロジェクト in フィリピン』始動

【背景】

東日本大震災を期に、非常食の備蓄が呼びかけられ、行政はじめ各種団体、企業の防災備蓄が進んだ。その備蓄食料は、賞味期限が切れる時期を迎えました。

非常食も年々進化し、より良く賞味期限も長くなってきているとはいうものの、必ず入れ替えは必要となります。

大量の非常食は、賞味期限を間近に控え、有効に使われているのでしょうか？

防災訓練をはじめ、企業内では、従業員さんに配ったり、一部は、有効に利用されているように思われますが、大半は、見えないところで廃棄処分されているのが現状です。

【目的】

昨年の台風（ヨランダ）被害同様に、本年も台風災害が懸念されるフィリピン共和国に対し、あらかじめ身近に備蓄品を備えていただき、フィリピンでの備蓄教育と同時に日本国内での備蓄品の入れ替えをうながすことを目的とします。

【フィリピンでの備蓄後の活用】

フィリピンの台風シーズンが終わる12月に備蓄食品を生活困窮者に対し、食糧支援品として活用して

【支援計画】

- ・回収対象者：行政、企業、団体
- ・備蓄品引き渡し予定日：平成26年10月
上旬から中旬
- ・回収受付：平成26年8月15日～8月31日まで
- ・回収場所：三重県四日市市昌栄町8-12
TEL 059-351-1919 FAX 059-351-1917
株式会社 シルバーフードサービス
- ・回収方法：上記場所まで持ち込み又は、配送便にて
- ・賞味期限：**平成27年1月31日以降のもの**
- ・回収物資：アルファ米、缶詰めパン、ビスケット、クラッカー、飲料水、缶詰類、レトルト食品類
- ・物資管理及び支援方法
フィリピン国内において物資の管理及び食糧支援はインターナショナルDSWDにて行う。
- ・協賛依頼：上記活動に対し、物資提供と合わせて活動協賛金も頂けたら幸いです。
- ・活動報告：活動報告は、メール、FAX等ご指定の方法にてフィードバックさせていただきます。

【主催】（一社）日非常食推進機構・NPO法人WBA

【協力】社会福祉開発省（インターナショナルDSWD）
国際移住機関（IOM）フィリピン外務省（UNIO）

【後援】外務省

【協賛】ホームページ参照

国際移住機関（IOM）駐日代表 ウィリアム・バリガ氏のコメント



（英）

The concept of making good use of about-to-expire emergency food stock of the Japanese institutions is an innovation that is both practical and humanitarian. Thank you JEFO.

William BARRIGA, Chief of Mission, IOM Tokyo

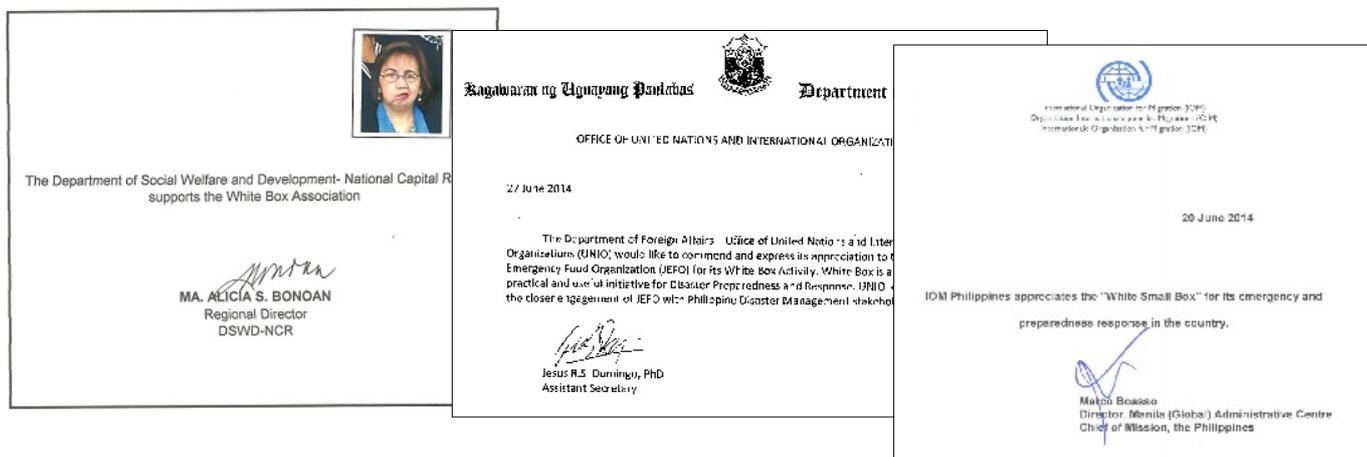
（日）

賞味期限の迫った非常用備蓄食料を有効に活用するこの試みは、現実的にも人道的にも革新的です。JEFOに感謝します。

国際移住機関（IOM）駐日代表 ウィリアム・バリガ

『世界の絆プロジェクト in フィリピン』の活動支援にご協力をお願いします。

DSWD、UINO、IOM フィリピンからも支援のコメント頂きました。



愛知県 A 社 2 部門より備蓄品の提供申し出を頂きました。

缶入りカンパンやアルファ米、保存水など想定総重量で 9000 kg の廃棄前備蓄品の提供申し出を頂きました。この総重量を実際に廃棄する場合、約 40 万円の廃棄コストが必要となります。

そこで「白い小箱運動」や「世界の絆プロジェクト in フィリピン」でまだ活用出来る備蓄品を有効利用、また社会貢献事業に役立てたいとのご判断をいただきました。

廃棄予算の一部を

「白い小箱運動」や「世界の絆プロジェクト in フィリピン」へご協賛下さい

実際には必要であった廃棄コストを、この「白い小箱運動」や「世界の絆プロジェクト in フィリピン」にご協賛またはご寄付をお願いしています。

この運動を長期に実施していくための予算は、この運動に賛同して頂ける皆様からの会費・協賛費・寄付から成り立っています。しかしながら、ボランティア的に始まったこの運動を維持していくだけの活動費は疲弊しているのが現状で、安定した運営継続にはまだまだ予算が足りません。

「いつ起こるわからない災害」、自分の身は自分で守る自助の精神だけでなく、みんなで守りあう「共助」の精神にご協力下さい。

平成 26 年度「白い小箱運動」会費（JEF0 会費）について

「白い小箱運動」の運営にご賛同頂きありがとうございます。
今年度の会費につきましては、下記口座への振込をお願い致します。
但し、振込手数料が発生致しますのでご了承ください。
振込み前に事務局へご連絡を頂きますようご協力ください。
今年度も会の活動にご理解とご協力を、賜りますようよろしくお願い申し上げます。

【振込先】

第三銀行 中央通り支店（普）2458021 百五銀行 四日市西支店（普）696478
ゆうちょ 記号番号 12250-25686451

正会員（個人）10 万円 会員（法人）30 万円
賛助会員（個人）3 万円 会員（法人）10 万円
協賛会員（個人）1 万円 会員（法人）3 万円

